

当院での、FIM 点数がプラトーに達した後、2ヶ月以上入院していた患者の傾向

齋藤 亮

新座病院 リハビリテーション科

当院では、Functional Independence Measure(FIM)の点数がプラトーに達していたにもかかわらず、退院が遷延したケースがある。そうした症例に対して FIM 点数がプラトーになった時点で退院を促すことが出来れば、無意味な入院期間の遷延を抑制できるはずである。そこでまずは当院回復期リハビリテーション病棟において、FIM 点数がプラトーに達していたにも関わらず2ヶ月以上入院していた患者の傾向を分析した。

2010年4月から7月までの期間に当院を退院した患者の内、急変や合併症の悪化等による能力の低下があった患者を除く、71名(男性42名、女性29名、平均年齢75.4歳)を対象とした。対象者を退院時のFIM点数に達しているにもかかわらず、2カ月以上入院していた群(A群:26名 中枢疾患19名、整形疾患7名)と、それ以外の群(B群:45名 中枢疾患24名・整形疾患21名)に分け、FIM総得点と向上点数の月毎の推移を探り、studentのT-検定を行った。

【結果】

①FIM総得点はA群:74.8(入院時)→78.3(1ヶ月目)→80.1(2ヶ月目)→80.9(3ヶ月目)、B群:89.9(入院時)→94.8(1ヶ月目)→100.2(2ヶ月目)→102.5(3ヶ月目)となった。各時期での2群間で、平均点数に有意な差は見られなかった。(P>0.01)

②FIMの向上点数はA群:3.53(入院時~1ヶ月目)→1.80(1~2ヶ月目)→0.84(2~3ヶ月目)、B群:4.97(入院時~1ヶ月目)→5.35(1~2ヶ月目)→2.26(2~3ヶ月目)となった。2群間で1M~2Mでの平均向上点数に有意な差があった。(P<0.01)

③FIM認知機能点数は、

プラトー群:24.2(入院時)→24.6(1ヶ月目)→25.3(2ヶ月目)→26.3(3ヶ月目) 非プラトー群:28.1(入院時)→28.5(1ヶ月目)→27.8(2ヶ月目)→27.6(3ヶ月目)となった。※入院時、1ヶ月目、2ヶ月目での得点で有意な差があった。(P<0.01)

【考察】

一般に、脳卒中発症から3か月目までで自然回復の割合は緩やかになるといわれている。1ヶ月目までは発症から2カ月前後であるため、自然回復で両群同程度の点数向上が見られた。しかし自然回復の割合が減少した1~2ヶ月(発症から3カ月程度)では、高次脳機能障害や認知症の影響が主な原因となり、見守りから自立への移行が困難であったことから、向上点数が伸び悩む傾向にある可能性がある。